

委員会会議議事録(案)要旨

日時：2000年6月7日

場所：Grieg Hall, Bergen, Norway

出席者：Sverre Sandberg(Chair,Norway), Andrea Rita Horvath(Hungary),
Tadashi Kawai(Japan), Wytze Oosterhuis(The Netherlands)の4名

討議内容：

1. 委員会の名称変更の件

新しい委員会として、従来の C-SRLM を Committee on Evidence Based Laboratory Medicine (C- EBLM)にすることについて全員が賛成した。IFCC/EMD/EC から示された趣意書(案)を基に SS が書き直した文書を委員に配布して意見調整を済ませたら IFCC/EC に 7月 15日までに提出する。

趣意書改訂版では、EBLM を定義し、その背景を説明する。目的の部分では、われわれの日常診療に EBLM を導入する過程でのわれわれの主な役割を記載し、委員会がいかに実行するかを含める。要するに、エビデンス(根拠)を作成するための教育、その厳密な吟味、およびそれらの根拠の臨床診療への還元、である。それは TQM の一部でもあると認識した。

2. IFCCによる出版物の件

EBM,EBLM に関する指針を収集し、これらにコメントを付して IFCC から出版すべきである。すなわち、(a) 一次論文の書き方に関する指針(既に IFCC でまとめつつあるし、START 計画に WO が参加する予定)、(b) 系統的再評価の書き方に関する指針(The Cochrane Collaboration)、(c) (Cochrane Collaboration、ノルエー、デンマーク、日本などで)蓄積された根拠からどのようにして指針をまとめるガイド、および(d)これらの指針を臨床診療に導入するための方策、がある。

3. The Cochrane Collaborationとの協力関係の件

WOが既に非公式に委員会と Cochrane Collaboration の関係について打診したが、必ずしも Cochrane Collaboration Working Group が積極的でない。今後、SSが委員長として正式な協力関係の構築に努力する。南アフリカで開催される今年度の Cochrane Collaboration 年会においてSRLMの新しい改訂版が討議される筈で、その資料が入手次第委員に配布するので、日本側委員の意見を聞いて欲しい。WOが出席するので、日本の ICPC/C-SRLM 関係者とも打ち合わせたい(TKが日本からの参加者名を通知する)。

4. 2002年京都会議の件

TKが上田学術プログラム委員長の意向を伝えた。委員会として、京都会議での Symposium(約2時間半) and/or Pre-Congress Educational Course について積極的に参加する。シンポジウムについては、SSが提案を作成して委員に配布し意見調整後、

京都会議の学術プログラム委員会に提出する。Pre-Congress Educational Course については、S S が IFCC/EMD/EC と連絡して、われわれの委員会が参加できるか調整する。これについて、EBM の進め方の教育研修をしている CASP(Critical Appraisal Skills)の日本関係者と T K が接触する。

5. 2001 年プラハ会議の件

2001 年にプラハで開催されるヨーロッパ臨床化学会議で、委員会としてどのように活動できるかを連絡する。

6. データベースの件

まだ SRLM のデータベースはほとんどないが、委員会 (S S, W O) として約 50 ほど蓄積している。委員間での合意により、IFCC website への公開を打診するために IFCC 関係者と連絡を取る。T K は日本の ICPC プロジェクトのホームページに取り込むことを提案し、R H は既に経験をもっている Jonathan Kay/Bandolier に打診する。EU が断念しているので、MEDION データベースと W O が接触する。

7. 他の国際学会との接触の件

委員会としては、他の国際学会 (例: ICSH, WASPaLM, ISTH, IUPAC, など) から代表委員を加えることで合意した。これによって、委員会活動が他の臨床検査の専門分野まで広げることが可能となる。これについては、IFCC/EMD/EC と調整し、可能であればそれぞれの国際学会の関係者に委員長名で呼びかける。

8. 国内学会との接触の件

少なくとも日本、デンマークで EBLM 委員会を発足しており、IFCC/C-SRLM との協力を希望している。IFCC 加盟のすべての国内学会にアンケートを送付して、それぞれの国の現状を調査する。これによって、より幅広いネットワークが構築できるであろうが、結論に至っていない。

9. Diagnostic Compass の件

どのような診断項目を取り上げるかについて議論した。W O がオランダの資料から優先的な項目の一覧表を回覧するので、日本の ICPC/C-SRLM のメンバーも協力する。こうした活動により具体的な指針作成に役立てる。

10. 次回委員会会議の件

次回は、2000 年 11 月 19~20 日、アムステルダムで開催が提案された。

(報告者: 河合 忠)